

新島襄の教育思想と 建学の精神

概 観

1. 智徳並行教育
2. 奉仕
3. 生徒観
4. 女子教育
5. 地方教育論
6. 大学構想

2

ミッション・スクール としての出発

- アメリカン・ボードからの資金と人材の支援
- 宣教師の多くは、伝道師養成学校にとどめるべきだと考えていた。

3

新島のビジョン

- リベラル・アーツの高等教育機関
- 総合大学

4

智徳並行教育

- 「智育」だけでなく、キリスト教主義に基づく「徳育」
- 智・徳・体の調和

5

体育(1)

- アーモスト大学
 - 大学体育館を作った最初の大学(1860年)
 - 新島は体育の授業を受けた最初の日本人

6

体育(2)

- フィリップス・アカデミー
 - 1867年、体育館を作る(新島の在学中)。1階にはボーリングのレーンが4本設置。
 - 新島はボーリングをした最初の日本人かもしれない。

7

体育(3)

- 同志社
 - 1879年、体育館を作る(場所は現在のアーモスト館)。
 - ラーネッドが体育を担当。体育の先進校。

8

徳育(1)

- 「心育」(心の教育)
- 「与える教育」
 - 新島の葬儀の際ののぼり(勝海舟による揮毫)「彼等は世から取らんとす、我等は世に与へんと欲す」。

9

徳育(2)

- 「取る教育」への警戒
 - 徳富蘇峰「要するに福沢教育は、取らんが為めの教育にして、新島教育は与へんが為めの教育なり。維新以来福沢流は一世を風靡し、日本は一大跳躍的進歩を為せり。然(しか)も日本が殆んど世界より除外視せられんとするの憂目を見たるも、亦た之が為めなり」。

10

徳育(3)

- 智徳並行の重要性
 - 多くを学んだ者は、学んでいない者よりもしばしば自己中心的になりがちであることを新島は見抜いていた。

11

徳育(4)

- 同志社大学設立の旨意(1888年)
 - (同志社の) 目的とする所は、独り普通の英学を教授するのみならず、其徳性を涵養し、其品行を高尙ならしめ、其精神を正大ならしめんことを勉め、独り技芸才能ある人物を教育するに止まらず、

–所謂る良心を手腕に運用するの人物を出さん事を勉めたりき。而して斯くの如き教育は、決して一方に偏したる智育にて達し得可き者に非ず。唯だ上帝を信じ、真理を愛し、人情を敦くする基督教主義の道徳に存することを信じ、**基督教主義を以て徳育の基本と為せり...**

13

奉仕(1)

- 聖書(使徒言行録20:35)
 - 受けるよりは与える方が幸いである。(イエスの言葉)
- ラーネット
 - [新島]先生は先生の絶えざる誠実と、完全なる自己忘却とによって、学校に最も尊い記憶と模範を残された。
- 新島
 - 人の偉大さは、学識だけでなく**私心のなさ**(disinterestedness in self)に現れる。

14

奉仕(2)

- 徳富蘇峰
 - 而(しか)して人間は唯だ[安樂に]生活するばかりでなく、更により大なる目的の為に生活するものであって、人間の生活は畢竟、**高尚なる奉仕の為にする**ものであり、人間の価値は奉仕する心の純潔と熱誠とに依って定まるものである、と言ふ事を教へたのは、新島先生である。

15

奉仕(3)

- ラーネット
 - 我が同志社の職員及学生諸君は希(ねがわ)くは新島先生に倣(なら)ふて、利己心を去って人の為に働く心と、見えざる神の御助を信ずるの確信と、同心協力の精神とを以て愈々(いよいよ)益々敬愛する創立者の目的を成就し、其の理想を実現せしむる様に尽力したきものである。

16

奉仕(4)

- フィリップス・アカデミーの校訓
 - NON SIBI(ラテン語)
 - Not for oneself
- アーモスト大学の校訓
 - TERRAS IRRADIANT(ラテン語)
 - Let them give light to the world.
- 同志社が望む人間像
 - **独立心**ならびに**良心**を持った**奉仕**の精神を備えた人

17

生徒観(1)

- 良心碑
 - 良心の全身に充滿したる丈夫(ますらお)の起り来たらん事を



生徒観(2)

- 遺言(1890年1月21日、死去の二日前)
 - いやしくも教職員は学生を丁重に扱うこと。
 - 同志社は発展するにしたがって、機械的に事を処理する懸念がある。心からこれを戒めること。
 - 同志社は**倜儻不羈**(てきとうふき)な学生を圧迫しないで、できるだけ彼らの本性に従って個性を伸ばし、天下の人物を養成すること。
 - 倜儻不羈: 信念と独立心に富み、才気があって常軌では律しがたい

19

生徒観(3)

- 平等主義、自由主義
 - 小生平素の目的ハ成文(なるたけ)法を三章二約シ、我力校をして深山大沢(だいたく)之如くになし、**小魚**も生長せしめ、**大魚**も自在ニ發育せしめ、小魚大魚各其分に応シ、其身を世に犠牲となし、此(この)美ハしき日本を早晩改良して主之御国、乃チ黄金時代に至らしめん事ハ小生之日夜熱禱して止まざる所なり。

20

女子教育(1)

- 当時の社会通念では、女子は教育の対象と見なされていなかった。そのような中で、進んで女子教育に取り組んだのは、主としてキリスト教関係者であった。
- アメリカン・ボード
 - 1875年、神戸ホーム(神戸女学院)の設立
 - 1876年、スタークウエザー(A.J.Starkweather)がデイヴィスの屋敷の一部を教室にして、女子塾「京都ホーム」を開く。
 - 1877年、「同志社女学校」と改称。校長は新島。

21

女子教育(2)

- 社会改良運動(キリスト教婦人矯風会)の女性幹部・佐々城豊寿(とよじゆ)に対して
 - これまでの女学校の卒業生を見ると、大体において、長年の間、父母に苦勞をかけ、大金を使わせ、苦勞してようやく卒業すると、すぐさま結婚し、その後は学校に行かなかった女性と少しも異なることなく、社会のために働こうとせず、無教育の女性同様に夫の圧制のままになるのが普通です。彼女らは何ひとつ自分の意思を通すこともできず、せつかく学んだ技量をあらわす道もなく、逆に学ばなかった炊事や育児にかまけて、結局朽ち果てて行くのは、何としても残念です。また夫の方も、大局から見て、これが不利益であることに気づかないことは、長い習慣とはいえ、気の毒なことです。のみならずこれが文明の妨げとなっているのです。

女子教育(3)

- 新島は、アメリカ留学中に、女性が高等学校の教員や校長を務める現実に目の当たりにした。

23

女子教育(4)

- 同志社は男子校と女子校をほぼ同時に発足させた希有な例。
 - 同一学校法人の中に大学と女子大学が並置されている例は、ほとんどない。
 - 同志社女子大学
 - リベラル・アーツの伝統を重視する。
 - Doshisha Woman's College of Liberal Arts

24

地方教育論(1)

- 新島は東京一極集中に批判的
- 徳富蘇峰らが、同志社の東京進出を新島に強く勧める。

25

地方教育論(2)

- 遺言
 - 東京に政法学部、経済学部を設置するのは、最近の事情を考慮すれば、とうてい避けることができないと信じる。
 - 徳富蘇峰の説得の結果と思われる。

26

地方教育論(3)

- 地方にこそ、教会とキリスト教学校が必要であると主張。
 - 前橋:前橋教会と共愛女学校
 - 安中:安中教会と新島学園
 - 1886年、宮城英学校を設立。校長は新島。

27

地方教育論(3)

- 新島は同志社の分校を全国各地に開く夢を持っていた。

28

大学構想(1)

- 新島は、神学や英文学を教えるコース以外に医学部や法学部を重視していた。

29

大学構想(2)

- 1887年、同志社病院と京都看病婦学校を設立。アメリカン・ボードは医師のベリー(J.C.Berry)と看護婦のリチャーズ(L.Richards)を同志社に派遣。
 - 当時、看護学校の分野でもキリスト教関係者の働きは大きかった。

30

大学構想(3)

- 1890年に法学部を含む大学を設立することを新島は目指していた。
 - 1890年、国会開設と憲法発布が予定されていた。

31

大学構想(4)

- 「自治自立の人民」の育成
 - 私立大学であることの意味
 - 生徒が「独自一己の気性を発揮し、自治自立の人民を養成するに至っては、是れ私立大学特性の長所たるを信ぜずんば非(あら)ず」

32

大学構想(5)

- 新島は、私学である特色を最大限に発揮して、宗教教育(徳育)により「自治自立の人民」という日本の近代化には不可欠な人的基盤を構築しようとした。

33